

ベトナム・メコンデルタにおける気候変動影響と適応策

茨城大学提供
作成日 2016年2月10日
更新日

	研究者氏名 たむら まこと 田村 誠	所属機関 茨城大学地球変動適応科学研究機関	関連キーワード(複数可) メコンデルタ、気候変動、海岸侵食、脆弱性、適応策
	主な研究テーマ <ul style="list-style-type: none"> 気候変動への影響・脆弱性評価と適応策 ベトナム・メコンデルタ等における気候変動に関する住民調査 	主な採択課題 <ul style="list-style-type: none"> 基盤研究(B)平成26～29年度(配分総額:12,090千円) 課題名「気候変動適応策の有効性と限界」 基盤研究(C)平成24～26年度(配分総額:5,590千円) 課題名「気候変動適応策の隘路と打開策」(分担者) 	

① 科研費による研究成果

ベトナム・メコンデルタは世界有数の穀倉であるが、低平地が広がっており、海面上昇や高潮などの気候変動影響を受けると予想される。気候変動と人口、貧困などの社会経済影響とを加味して脆弱な地域を特定し、現地での適応策の実情と今後の方策を検討した。

- 脆弱な地域のうち、ソクチャン省 Vinh Chau地区の海岸線をUAV(ドローン)で空中撮影した。約9年間で多くのマングローブが消失し、約240mの海岸線が後退した(図1)。
- 2014年8月にベトナム水資源大学と協働でソクチャン省3県19市鎮・社1,036世帯で住民アンケート調査を行った(図2)。
- 主な結果は次の通り。
 - 住民は洪水・嵐・侵食の増加を認知し、適応策を施している
 - 貧困な地域では事前の対策を施す余裕がない故に脆弱である
 - 一部地域ではゆっくりとした浸水を起こす洪水を「良い洪水」とし、農業や漁業と共存する姿勢もみられる



図1 ソクチャン省での海岸線の変化



図2 住民レベルでの適応策(複数回答)

② 当初予想していなかった意外な展開

2014年にNHK、2015年に朝日新聞の記者が調査に同行取材し、成果の一部がメディアで取り上げられた。

- NHKスペシャル「巨大災害 Mega Disaster」資料提供・出演, 2014年8月30日.
- 朝日新聞「地球異変:海に沈む集落ベトナム」, 2015年12月9日朝刊1面および7面(東京版)/5面(大阪版).
- 朝日新聞「海岸侵食:ベトナムで深刻化」, 2015年12月17日科学面.

(朝日新聞ネット版URL:

<http://www.asahi.com/articles/ASHD477HFHD4PLBJ007.html>)

③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

・2015年12月にCOP21でのパリ協定が締結されるなど、気候変動の影響と適応策は今後ますます重視され、報道を通じてその現状を多くの方々に知って頂くことができた。植生を活用した安価な多重防護策、土地利用計画など、地域の実情を把握し、きめ細かな適応策を検討していくことが望まれる。